第３回福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　議事録

日　時：　2017年 1月25日（水）13:30-16:00
場　所：　福井市役所8階　第8会議室(A)(B)
出席者：　策定委員会　　石丸委員、今村委員、小原委員、古石委員、中嶋委員、野坂委員、野嶋委員、長谷川委員、山崎委員、友廣委員
　　欠席：中西委員
資　料：　資料Ⅰ　第３回福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会
　　資料Ⅱ　福井市文化会館整備基本構想（素案）

事務局　■次第1　開会
■次第2　協議事項
資料Ⅰの説明
・第2回策定委員会のご意見より
・第2回、第3回市民ワークショップより
・基本構想素案
はじめに
1.　基本構想策定の背景
-文化会館開館後の社会経済情勢
-国の文化政策の動向
-劇場・ホールの変遷および動向
-福井市の文化芸術に関する施策
-背景からみる文化会館の位置づけ
2.　文化会館の現状
-施設概要
-利用状況
-市民意見・関係機関ヒアリング等の結果
-施設の現況とヒアリングからみる文化会館の位置づけ
3.　文化開館の必要性と将来像
-文化会館が目指すべき姿（将来像）

Ａ委員　やはり現在の文化会館は、施設面でも直しようがないような状況に来ているのではないか。今の文化会館の場所で機能改善をしようとしても、あるいは建替えをしようとしても、本来の文化会館が果たすべき役割は、全然果たすことは出来ないという考えを持っている。

Ｂ委員　毎日なにかをやって集まれる、ふれあいの場を求めているというのは、各委員も市民も一緒。今後どうしたらいいかという方向付けへ持っていった方が、前向きな意見が出てくるのではないか。

Ｃ委員　文化会館を毎日利用する場であることが必要かどうか、考えないといけない。ハピリンで毎日イベントをやってもいいのではないか。レストランや喫茶店、商業施設があって呼べるような形でないと、ただ施設だけで毎日利用するようにはならないのではないかと思っている。
それからフェニックス・プラザをもう少し利用しやすくする必要があると思っている。会議室は7つあるということだが、使っていない。既存施設の利用率が非常に悪い。もう少し使いやすいようにするということについても考える必要がある。
それと、学校の先生方にもお聞きしたい。文化会館で音楽祭や発表

会をやるということだが、やはりフェニックス・プラザが使いづらいということか。利用料を下げれば使いやすくなる点もある。県立音楽堂も安くすれば使えるかもしれないし、金銭的な問題でこういった偏りがあるのではないかといったところも確認する必要があるのではないか。

それから、ハピリンに能楽堂があるが、文化会館ができるのであればそちらに能楽堂を移して、ハピリンのホールを毎日使えるような施設にした方が、効率がいいのではないか。文化の場所が文化会館で、みんなが集まる場所についてはハピリン、という使い分けをする。

Ｂ委員　　ハピリンの能楽堂は、能楽関係者が入らずに中途半端な施設をつくってしまった。だから福井にシンボル的な文化施設をひとつつくって、それを基にしてハピリン、フェニックス・プラザをどう使うかを考える必要がある。ただでさえ少子高齢化で人口減少して若い人がどんどん出ていってしまう中で、いかにそういう若い人たちを留めて文化に携わってもらうかということを考えていかなくてはならない。その中で、毎日来てもらう場合には飲食関係の場所なども同時併設していったらいいのではないかと思う。

Ｄ委員　　フェニックス・プラザは、連合音楽会で使ったことはない。理由としては、経済的な面と座席が段階状になっていない点（※客席フロアの前方半分がフラットな席）が、生徒指導的に難しいということがあげられる。それからバスの駐車時間に困ることがあり、文化会館の利用を決定したという経緯はある。

事務局　　ハピリンホールの能楽堂の話ですが、元々、能楽堂は福祉会館の中にありましたが、福祉会館自体の耐震、老朽化の問題に対応を検討しなければいけない中で、能楽堂の機能は、どこかで確保しなければならず、新設ホールに移したという流れがあります。

ただ、能楽堂だけでその施設自体が維持できるかという問題があり、ハピリンホールは3つの使い方ができるようなホールとして整備したしました。従って、能楽専用ホールというよりは、今ある機能自体を確保しながら、伝統芸能にも対応できるようなものを造っていかなければいけないということが、そもそもの考え方である。

事務局　　Ｃ委員からの、「毎日利用するのはいかがなものか」といったご指摘について。北上さくらホールのホワイエがミニコンサートや自由な練習の場として使えるように、行けばそういったシーンを見られ、行ってみようという雰囲気が、文化会館にも出せたらいい。ハピリンの多目的ホールがその替わりになるかというと少し観点が違う。

それからフェニックス・プラザの会議室について、ひとコマの平成25年における稼動率は20%弱。ただ、1日では50～60%の利用、6月～秋にかけては100%近い利用がある。年間を通すと、極端に利用が多い月、少ない月にわかれるということがある。資料が揃ったら皆様にご提示させていただきたい。

また、金額的な設定理由について、公共施設は施設単位で設置目的を設定する。フェニックス・プラザの設置目的を背景に、その場合の利用料金をいくらに設定するかという考え方があり、一般的にアオッサ等で設定しているような金額よりも高めに設定していると理解をしている。

Ａ委員　　フェニックス・プラザには、エントランスホール、ロビーがあるが、以前そこを集客利用しようと提案したら許可が出なかった。
ハピリンホールの能楽堂の話も出ていたが、役割を果たしたとは言えない。すべて中途半端になって終わっている。実際に入ってみると使えるところはたくさんあるが、万が一のことを想定してそこは使ってはいけない規定がある。諸条件を考えながら、文化会館が果たすべき役割をフェニックス・プラザや県立音楽堂で満たされるか考えてきたが、どうしても満たされない。われわれが次世代にとっても恥じないものをつくって、文化会館というものの機能を考えていく必要があるということを是非ご理解いただきたい。

Ｃ委員　　Ｂ委員やＡ委員が言っていることを否定しているのではなくて、あれもこれもお金をかけたらとても財政的に無理があるため、既存のものも活用できるところは活用したらどうかという提案。設置目的とかもあるが、もう少し使えるようにして、せっかくあるものが持ち腐れになっていくことのないようにしなければならない。
出来るかどうか分からないが、能楽堂を新しく出来る文化会館に一部移設すれば、ハピリンもホールを広く使え、客席も増えるため、多目的としてもう少し使えるようになる可能性がある。
しかも、ハピリンの方が駅前で人が集まりやすい。交流の場ということであれば、ハピリンをもっと活用することを考えたらどうか、施設自体の機能を考えながら利用したらどうかと提案した。Ｄ委員が仰っていたバスの問題は、文化会館の前に停めるよりはフェニックス・プラザの横に停めた方がよほど交通の迷惑はかからない。たしかにそんなに大きくなくても良いと思うが、せっかくならフェニックス・プラザを使ってあげたらどうかと思っている。

Ｅ委員　　策定委員会というのは関係者や専門家の方が意見をまとめて議会に諮り、そして市長が判断する機関なので、私たち議員はなるべく意見は言わず皆さんの意見を聞き、それを議会に持ち帰って議論しようと考えていたが、いつまでこういう会議を続けていくのか。意見を聞くことは大事であり、せっかく作るのであればなるべく多くの団体の希望をかなえられる施設をつくることが一番素晴らしいと思う。だけどそれにはスペースの問題、予算の問題もある。ハピリンの能楽堂について議論が出ているが、おそらく市長は熟慮の上で、あそこに設置した。しかし、それがもうすでに機能を果たしていないという議論をし出すと収集がつかない。意見は意見で聞いてもいいがある程度集約し、枠を決めて議論をしないと無限大な討論会になってしまう。いろいろな機能を満たすのも良いが、節度というものがある。

事務局　　今回、基本構想と基本計画と2段階で計画を立てていく話になっている。基本構想では文化会館の必要性、整備の方向性を十分議論いただき、基本計画の中で詳細につめていくことになる。その際には諸条件の中で、どのように建替えしていくかについても内容が絞り込まれていくと思う。
ただ基本構想については、望ましい文化会館の在り方について十分な議論が必要だと思っているため、そちらの方を議論いただきたい。
それから、ハピリンについては人が自由に集まってくる機能をすでに持っているのではないかという話をいただいた。そうすると今後基本計画の中で、今基本構想ではそういった人が自由に集まれる機能も新しい文化会館に必要じゃないかという議論があるが、そういった機

能についてはハピリンホールなりハピテラスに担ってもらおう、という議論をしながら基本計画の中で絞り込んでいきたいと考えている。
　従って、基本構想の中ではあるべき姿を議論いただいて、基本計画の中で諸条件、計画の中身を絞り込んでいく形で考えてもらえればと思っている。ただ、フェニックス・プラザとの棲み分けがまだ甘いという指摘については必要性に関る重要な部分であるため、もう少し整理しなければならないかと思っている。

事務局　　資料Ｉの説明
・基本構想素案
　4.　基本理念
　　-基本理念
　　-基本理念　目指す方向性
　　-基本理念　施設の目指す方向性のイメージ

Ｆ委員　　人が集まる機能をつくるという中の「人が集まる」の解釈が違うと思っている。ハピリンに毎日人が集まるというのは、消費しにいくという賑わいの意味。文化会館に求められているのは、なにか文化的なことをする人が集まる、プラスそういった人たちやギャラリーなどを見に来るという意味。そこの解釈がばらばらかと思うので、統一したほうがいい。
　それから、人が集まる場所ということでコンベンションも考慮したと書かれているが、文化会館はMICEには向かないのではないか。逆にフェニックス・プラザはそういったコンベンション的な機能が充実しているというのが特徴。コンベンションを混ぜてしまうとMICEとかそういったものを文化会館に引っ張るのかという話になってしまうので、これは分けた方がいいのではないか。フェニックス・プラザは使用料が高く使いにくい側面もあるが、会場としては使いやすい。文化会館とフェニックス・プラザの大ホールを何に使うかの区分けという意味で、⑥にコンベンションを入れてしまうと人が集まるという意味は若干変わってくると思う。本当はそういう意味ではないが、一般的にはコンベンションとは企業系のもの、見本市、エキシビションをやる、という意味に使われているのでそこだけ整えた方がいいかと思う。

事務局　　コンベンションについて、確かにこの表現では誤解を生むのは間違いないと思うが、コンベンションというワードを使わずにおくのも難しいかと思っている。ただ、いまの文化会館でのコンベンション機能の考え方は、周辺施設それぞれの機能を集約して、文化会館は大ホールを全体会だけで使う。そういった一部の使い方をするような施設の位置づけとしたいといった表現は入れたいと思っている。

Ｃ委員　　コンベンションとは基本的に立地、場所にもよる。フェニックス・プラザの近くに新しく建てるのであれば加味してもいいかと思うが、これを前面に出すよりは文化芸術ということを前面に出した方が文化会館としての特性が出やすいのではないか。
　それから、いまＦ委員が言ったような、人が集まるような機能であれば私は賛成である。またハピリンの能楽堂の件は、文化会館を新しくつくるとなったときに、小・中ホールといったものをつくって、能楽堂をそのまま移設できるように考えた方が文化会館のイメージとしてはふさわしいのではないかという意見だった。

Ｅ委員　　既存の施設の併用も考えて、そこだけでまた新たな施設を作るようなことにならないように、ということを言いたかった。

Ｇ委員　　コンベンション機能と書く必要はないと思う。文化芸術とはやはり高尚で大事なもの。福井市民に本当に文化にふれあってほしいと思うから、そういうことでないことはいれない方が良い。あえて言う必要は全くないと思う。どちらかというと気軽に人が集まりやすいとか、芸術にふれられるようなところがあって、そういった集客施設が良い。

Ｃ委員　　コンベンションということになってそれを前面に出しすぎると、フェニックス・プラザのように可動式の椅子で中途半端なものとなり施設的な問題が出てくる。固定式の椅子の方が良い。それを利用しての講演会とかはできると思うし、全然問題ない。

Ａ委員　　少し誤解を招いていると思う。今までの福井市内にある文化施設というのはそれぞれがそれぞれの機能を果たしていると思うが、一番の欠点は本格的な舞台芸術、舞台をつかっての発表、創作、発信、そういうことができる場所が中途半端ではないかということだと思っている。私は福井から発信できるような施設を是非つくってほしいということを申し上げた。

Ｈ委員　　いいものを作りたいというのは全員の思いだと思う。きちんとした舞台がひとつ機軸にあって、さらにリハーサルや練習する場を機能として備えているものであって欲しいという話でここまで来たと理解している。基本理念も、これでだいたい皆さんの意見が反映されていると思うが、最後の⑥の人が集まる場、というところの書き方が、文化会館にだけ来るということだけでなくて、＋αの部分も備えたものである、ということをもう少し盛り込めたらと思う。
　一般市民に広く開かれた施設にすることで、年代問わず広く多くの人が集まる場とする、という方がしっくりくるかと思う。これから出てくる基本構想の中で、文化会館だけをつくるということではなく、福井のまちをどうするのか、そういうことも総合的に検討していかなければならない。

Ｉ委員　　文化会館には競い合って、福井県として最高のものを発表できる場所であってほしいと思う。そこに出るということが、希望を与えるような、提供できるような場所を文化会館としてつくってほしい。

委員長　　基本理念の中の③発表する、日頃の練習の成果を発表する積極的な機能、ハレの舞台だというところ。そこはもう少し加筆する必要がある。
　このあたりは事務局と相談して表現のニュアンスを決めていきたい。これは前回の委員会で協議した内容を基本的には網羅しており、精査した内容なので、本日の議論、意見、あるいは市民のニーズも、反映した理念、方向性ということには基本的にはなっていると考えている。従って、この回は基本的に原案ということでご承認いただいてよろしいだろうか。

事務局　　目指す方向性の③と⑥については今日の意見をふまえ、少し修正し対応させていただく。
資料Ｉの説明

・基本構想素案
5.　今後の整備方針
　　-今後の整備方針　再整備の方向性
　　-今後の整備方針　施設整備の要件

委員長　　基本的に方針としては建替えという事務局からの提案で、これは安全性だとか、これまで議論してきた理念や方向性に対する機能を充足するには、改修だけではなく建替えなくてはいけないということだという説明だったが。

Ａ委員　　今日の会議では感動と発信と育成という３点に絞って、内容は①～⑥までを含めたこれを理念として進めようという方向にいくわけだが、前の会議をふまえてこういう案になったということを共同認識のもとで確認しながら、次へ進めるということをすればもっと会議がスムーズにいったと思う。その間のやり取りをはっきりしてほしい。まずこれでいきましょう、と腹を合わせないことには次にいけない。

Ｈ委員　　Ａ委員が仰っていることだが、話が少し戻る。前回は4つの言葉をキーワードとして出すというところで終わっていた。それが今日出てきた基本理念のところで感動、発信、育成というキーワードが３つに絞られていて、創造というものはこの3つの中に入っておらず、新たに感動という言葉が入ってきている。私は、ここを機軸として理念をつくろうという話だったので、①～⑥の方向性の中にそれぞれの言葉が入っており、それは事務局が考えて3つの言葉に絞るという形で提示されたと思っているが、Ａ委員は前回との関係の説明がなかった部分が理解できなかったということがあった。整備の方針について建替えるのかどうするのかというところも、こうする、という結論をとっておかないと、次のときにまた話が元に戻ったり、違う方向にいかないか、ということを言っているのだと思う。

Ａ委員　　それが悪いというのではなく、こういう方向でいいですかということを皆で共通理解しないと前に進む事はできない、確認しようということを言っている。

委員長　　改めて、これで行きたいと思うがよろしいか。若干の表現は修正ということで皆さんにご了解いただいた。再整備についても、基本構想では建替えを基本とさせていただくというご了解をいただいた。

事務局　　基本構想素案については、この策定委員会から福井市の方へ答申という形で提出をする。本日いただいた意見の反映は、山崎委員長と相談し、修正作業を行い、基本構想素案としたい。そちらでよろしいか。

一同　　はい。

委員長　　今回提示があった基本構想素案について、大筋の合意を頂戴したということかと思う。細かな修正点については、委員長である私にご一任いただくということでよろしいか。

一同　　はい。

委員長　　ではその修正を以て、本策定委員会の福井市文化会館整備基本構想

素案として、福井市に提案させていただく。

事務局　■次第3　事務連絡

今後のスケジュールについて。本日3回目の策定委員会の後、パブリックコメントを2月下旬～3月上旬にかけて行い、それを加味した上で基本構想の確定を行うのが3月下旬。このあたりは事務局と山崎委員長の方で確定させていただきたい。大きな変更があれば、皆様の意見を伺うために緊急に集まっていただくこともあるかと思うが、今年度はこれで終了となる。

新年度について、委員会4、5、6回を7月までの中で終了させたい。この3回の中で決めてしまいたいことが3つ。1つめが場所で現地なのか移転先をどこにするのか。2つめが規模で特にホールの規模、何席を設けるのか。3つめが諸室で楽屋、練習室、会議室等をいくつ設けるか。3回の中でこの3つをほぼ確定をさせていきたいと思っている。場所については、4回目に候補地を提示、決定は5回目か6回目になる。

Ｇ委員　場所をどこにするのかというのは非常に気になっていて、わかっているのであれば先に提示していただきたいというのもある。文化ホールというのは大事な場であり、場所が非常に大事だということで簡単に決めていいのかということもある。難しくても、本当に適した場所があるならば再開発という方法もある。やはりここで簡単に４回目に場所を決めるというそのプロセスは違うと正直思う。どの程度場所を決めようとしているのかをお示しいただきたい。

事務局　もちろん4回目でいきなり場所が決まるとは思っておらず、これまでいただいた意見もまとめて、候補地をある程度こちらの方で絞り込み提示させていただく。場所ありきで諸室が決まっていくというような形ではなく、4、5、6回平行して議論していく形をとらせていただきたいと思っている。1回の議論で終わるような話ではないというのは十分認識しており、当然福井市が目指しているようなまちづくり構想といったこともふまえて提案させていただくということは考えている。ただ、現時点でここということは、なかなか難しい。

Ｈ委員　建替えるとなると何年先が完成予定か。

事務局　現時点で最終ここを目標にということはまだ言えない状態。そういったことも合わせて、現地建替えか移転かということも諸条件のひとつとして提示していきたいと思っている。

Ａ委員　冒頭、現在の場所での建替えの可能性はないと私は言った。おそらく福井市としてはいくつかの適地を探していると思うが、現地は可能性がなく、建替えして違うところへ持っていかなければいけないのではないかという意見を言った。

事務局　意見としてはいただいたことを承知している。現位置での建替えということについてはいろんなデメリットもあり、一方費用面でのメリットもあると思う。そういったことも整理した上で、議論の対象としていくつもりでいる。

事務局　■次第4　閉会